

## 研修報告書No. 1

今回、地域医療研修のため、高知県〇〇町の町立〇〇病院で研修させていただきました。高知を選択した理由としては、私が生まれも育ちも東京であり、関東から離れた場所で研修したいということ、いままで触れたことのない四国の土地柄を一度見てみたいといった理由からでした。〇〇病院は目の前に〇〇川が流れ、自然に囲まれた山間部に位置し、高知駅から路線バスで1時間半ほどの病院でした。

〇〇病院は救急対応も行っている病院であり、CT、MRI、内視鏡設備を有し、また採血やレントゲンも結果が即座に返ってくるなど、自分が思っていた以上に設備が整っている病院でした。また、週1回の勉強会では、NEJやLancetなどの抄読会を行い、最新の知識を取り入れるなど、知識のbrush upも行われておりました。

研修は〇〇病院を拠点として、〇〇村〇〇診療所、〇〇診療所、〇〇診療所などにも伺わせていただきました。診療所では、患者さんの数は多くはありませんが、バスなどの交通機関もない山間部で暮らす方々の医療のライフラインとなっていました。重傷な患者さんこそいないものの、一人一人の患者さんが医師やスタッフと密接に関わり合いながら、信頼し合っていることが、短い研修の間でも見て取れました。患者さんが一方的に医師に頼っているというわけではなく、医師からもこの期待に応えるような真摯な姿勢を持っており、普段の生活や家庭内のことまで気を配りつつ、時には患者さんの内面的な苦痛についても診る姿が見られました。また、どの先生もgeneralの面でスペシャリストの先生ばかりで、どんな病気や疾患が来ても目の前の患者さんには全力で対応するという姿勢と豊富な知識に裏付けされた自信には、非常に魅力を感じました。

今回の研修で、地域・僻地医療を目の当たりにし、地方で求められているものについても少ないながら、知ることができました。週1回通えるような都心の病院と違って、月1度の診察と処方から治療を組み立て、可能な範囲でどれだけその人の生活の質を向上させるかなど、普段考えないような点についても考える良い機会となりました。

高知の医療の現状としては、私の目から見ても医師不足は否めない状況でした。診療科にかかわらず、医師の数は足りておらず、〇〇病院といった地域の拠点病院であっても、内科医師ですら確保は難しいとのことでした。医師のいない診療科は、高知大学から派遣された医師によって支えられていました。〇〇病院の常勤の医師も、自治医科大学の医師がほとんどであり、県外からの出身者はほとんどいない状況でした。地元の大学病院や比較的人数の足りている病院がなんとか医師を派遣し、こういった僻地の医療を支えているのが現状です。

私が感じたことは、前述したように、地域の医療は都心部の病院と比較して劣ったものではなく、地域で医師を育て、その地域に医師が残るようなシステムが構築できればよいのではないかと思います。大学病院では臓器別の系統だった教育になりがちであり、こ

ういった **general** な経験は貴重な機会であると思います。また、こういった地域医療で特化している知識は、どの医師にも必要不可欠なものだと思います。知識を学ぶとともに、地域と医師のつながりが多少なりともできることで、医師不足解消の糸口になるのではないかと思います。研修の1か月という短い期間だけではなく、学生のうちから地域医療に触れる機会を作ることも必要であると思います。

最後に、他県から来た自分に、親切丁寧に指導していただいた先生方、暖かく接していただいた看護師さんやスタッフの方々にこの場を借りてお礼を申し上げます。